



茨城県近代美術館の移動展 銚田市立大洋公民館で移動美術館2008

「展示の美術作品が とても身近に感じる」

銚田市以上の市立大洋公民館で、10月4日（土）から19日（日）まで、茨城県近代美術館の「移動美術館2008」が開催され、会場には大勢の人が訪れた。移動美術館は、県近代美術館が所蔵する作品

を巡回展示するもので、油彩画、日本画、版画、水彩画、彫刻などの様々なジャンルの作品を鑑賞することができる。また、美術家のプロフィールのパネルや画材の見本なども展示されており、美術の世界をより身



近に感じられるようになってきている。

今回は、秘蔵コレクションの中から、印象派を代表するモネの油彩「ポール・ドモワの洞窟」やルノワールの油彩「マドモワゼル・フランソワ」をはじめ、横山大観の日本画「蓬莱山」、中村彝の油彩「雉子の静物」、小堀進の水彩画「水辺」など、茨城県ゆかりの作家や、黒田清輝の油彩「庭の雪」など日本を代表する作家の作品が、計31点展示された。

会期中の土曜、日曜、祝日は、学芸員によるギャラリートークが行われ、作品の鑑賞ポイントや制作された背景など、全部の展示作品の解説を詳しく聞くことができる企画も展開した。ギャラリートークで作品を鑑賞した人たちは「解説を聞きながら観賞すると、難しいと思っていた美術作品がとても身近なものに感じる」、「それぞれの作品が作られる背景には、作家の色々な思いがあることが分かった」などと、互に感想を語り合っていた。



銚田市立大洋公民館で毎月第2日曜日に活動している「みゆき織りの会」の皆さん。今年の春から同公民館で活動を開始した、手織りの作品を制作している会である。今回、活動日の10月12日（日）に、同会を訪ねた。

裂き織りとは、使われなくなった着物や古布を細かく裂いてテープ状にし、卓上の織機で織



長谷川先生（写真中央）の指導で行われた「網代織り」の練習風景。

【メモ】

- ★活動日は、第2日曜日の午前10時から午後3時まで。活動時間内であれば、自身の都合で自由に制作できる。午前中のみ、午後のみ、短時間でも活動可能。
- ★銚田市大洋文化祭は、10月31日（金）から11月2日（日）まで開催中。（展示の部は大洋体育館、発表の部は11月1日と2日のみ大洋公民館で開催）
- 入金の問い合わせ：銚田市立大洋公民館 TEL0291-39-3305

みゆき織りの会

大洋公民館
クラブ活動紹介

古い布を裂き織りで 美しくリサイクル

り込んで制作したもの。麻や木綿などの丈夫な糸を経糸にし、布を裂いたテープ状のものを緯糸にして、ひたすら織り込んでいく根気のいる作業である。

同会は現在、会員が11人。講師の長谷川幸子さんの手ほどきを受けながら、裂き織りに励んでいる。

会員の皆さんの中には、洋服で使われていた絹の白い裏地をコーヒで染色し、裂き織りの

糸にして制作している人もいた。絹の光沢とベージュ色の染めムラが独自の風合を出していた。

また、織り方にも様々な技法があり、当日は、格子模様が浮き出る「網代（あじろ）織り」の練習も行われていた。織った回数覚えていないと、色の切りかわりが分からなくなるほど難しい織り方だ。しかし、会員の皆さんは「いったん覚えてしまおうと、織り進めるのが楽しくなる」という。

講師の長谷川さんは、「裂き織りは、古い着物や着古した衣類を捨てるのではなく、最後まで再利用するリサイクル工芸です。裂いた布の糸は、組み合わせによって、想像以上のものが出来上がったりします。織り上がるまで予想がつかないところが魅力かもしれないですね」と裂き織りの奥深さを話す。一織り、一織り自分の手で織ることで、新しい作品によみがえる裂き織り。開催中の大洋文化祭には、会員の皆さんの力作が展示されている。